

七政策第 61 号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

七飯町長 中 宮 安



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり、提出します。

企画財政課政策推進室（担当：梅原）

TEL 0138-65-5797 FAX 0138-66-2054

e-mail t_umehara@town.nanae.hokkaido.jp

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道七飯町

道路は地域社会が発展していく上で、欠かせないインフラです。特に七飯町では、国道が町内を縦断していることから、その整備はまちづくりの根幹にかかわっています。

また、国道には道々や基幹となる町道が接続し、地域住民が移動するうえでも非常に大きな役割を果たしています。

これまでも、基礎的な社会基盤である道路(一般国道)は着実に整備されてきたところですが、グローバル化する社会・経済状況の中で、新幹線と合わせて高速道路の整備は非常に重要になってきています。

四全総及び全総計画の中では、国土の均衡ある発展及び新しい国土軸の形成を目指して高速交通網などの整備は国幹事業として進めておりますが、北海道、特に道南地域においてはその整備が遅れている状況にあることから、地域格差の是正を図るため早期に完成することが必要であると考えております。

しかし、道路財源の使途については近年多くの議論があることから、透明性の確保、説明責任、自然景観への配慮など、地域住民（国民）の協力の下で整備する必要があります。

一方、高速道路の整備は、人・物などが短時間に移動できるメリットはありますが、官・民を問わず拠点となる施設の一極集中による地方の過疎化の進行や、既存の国道沿線の商店街の衰退にもつながる恐れもあることから、これらに対する何らかの対策をとる必要があります。

このため、前述した透明性の確保などの課題の他に、高速道路を整備する際にその効果ばかりでなく、他地域の事例なども踏まえて、そのデメリットも地域に示したうえで、国及び地方がその課題を克服するためにどういう対策をとるのかを協議して、国と地方が一緒にまちづくりを行う観点も必要であると考えます。さらに、道路建設の費用対効果についても、交通量の増加、移動の利便性などの結果として目に見える部分だけの効果ではなく、その事業を実施することによる地域経済に及ぼす効果も非常に重要であると考えております。

また、高速道路の整備に伴い、それが有料か無料かを問わず、現道は地域の生活道路としての位置付けになると考えられますが、本町を縦断する国道5号は、赤松街道として歴史的価値を有しております。道路特定財源が一般財源化となり予算確保が厳しい状況とは思いますが、地域住民の足を確保することと合わせて、この赤松の維持管理も含めて、予算確保や機動性等考えれば引き続き北海道開発局の直轄事業として行うのが望ましいと考えます。

また、町財政も地方交付税が大幅に削減され厳しい財政状況にあります。道路整備に係る町民の要望は依然として高く、道路特定財源による道路整備だけでは間に合わず、一般財源を投入して道路整備を行っている現状にあります。今後も新規整備や維持管理に財源が必要となることから、道路整備の自由度の拡大と合わせて財源の確保を要望いたします。

②－１ 地域の現状と抱える課題

○現状

道南地域は、北海道における陸・海・空の南の玄関口であり、北海道と本州を結ぶ物流の大動脈を担っています。特に北海道からは農産物や水産物をはじめとした大量の物流が道南地域を経由しており、道南地域からはイカ、ホタテ、昆布などの水産物、七飯町からも米、大根、にんじん、牛肉などの農産物や畜産物が本州のみならず道内各地域に向けて輸送されています。

七飯町の道路交通網は、函館・札幌間を結ぶ主要幹線国道５号を主軸に、道道上磯峠下線、大沼公園鹿部線など、主要道道６路線で広域幹線網を形成しています。また、北海道縦貫自動車道七飯インターチェンジの建設や、北海道新幹線新函館駅（仮称）、函館空港を結ぶ函館新道、新外環状道路によって、全国・道内主要都市への飛躍的な交通アクセスの向上が見込まれ、新鮮な農産物の商品価値の向上が期待されています。

町道については、これらの主要国道・道道との安全で円滑な接続道路の整備により、都市計画に沿った町内道路網の形成と行き止まり道路の解消、歩道と車道の分離、傾斜地道路の雨による災害の防止、スリップなどによる冬の交通安全対策に配慮した道路整備など、第８次及び第９次町道整備５ヶ年計画に沿った整備を進めることとしています。

○課題

物流が確実かつスムーズに行われるためには、交通ネットワークの形成が必要不可欠であります。特に基幹産業である農業の経済基盤を強化するためには、道内各地域を結ぶ高速交通ネットワークの整備は欠かせないものであります。

農産物の運搬など物流の高速化は、新鮮な農産物の商品価値を高めるとともに、人や物の交流など地域経済の活性化が図られます。

しかし、道南地域においては、未だに道央方面からの北海道縦貫自動車道、函館空港へのアクセス道路（函館新外環状道路）、函館から江差方面への函館・江差自動車道などの高規格幹線道路の整備が完了していないため、道南地域の大きな課題となっております。

さらに、北海道縦貫自動車道七飯インターチェンジと函館新道藤城インターチェンジ間のアクセス道路についても、道南地域における高速交通網のネットワークの形成から必要不可欠となっております。

七飯町は、新日本三景の一つである大沼国定公園を擁しており、毎年全国各地から多くの観光客が訪れています。高速交通網の整備は地域経済を活性化させる一方で、大沼公園が一層通過型の観光地となってしまいます可能性も含んでいます。

町道の整備あたっては、財源確保と合わせて道路景観、自然環境に配慮するとともに、人にやさしいバリアフリーを目指した道路づくりが課題となっております。

②-2 地域の目指すべき将来像

北海道七飯町

平成18年6月に策定した「第4次七飯町総合計画」において、七飯町の特性や社会動向、住民のニーズ、町の発展課題、そしてまちづくりの基本理念を総合的に勘案して、目指すべき将来像を次の通り定め、「七飯」の持つ地域資源を活用して、子どもから高齢者まで、住民一人ひとりが安心して健やかに生涯輝いて暮らせるまちの実現を目指すこととしています。

将来像 私たちが主役 健やかな未来を育む あたたかいまちづくり

将来像を実現するための基本目標（道路行政に関わって）

基本目標1 暮らしの充実・のびのび安心 ～生活分野

今後の広域的な地域構造の変化や、社会・経済情勢の変化を見通し、長期的・広域的視点に立った計画的な土地利用を推進します。

特に、北海道縦貫自動車道、函館新道、北海道新幹線が結節されることにより、道南における高速交通体系が形成されます。これらを生かした七飯町のまちづくりを進めることが重点となります。北海道新幹線新函館駅(仮称)や函館総合車両基地へのアクセス整備をはじめ、人々が集う魅力ある市街地環境の整備や国・道道の整備促進、町道の整備を進めるとともに、快適な住宅・宅地の整備誘導、鉄道・バスなど公共交通機関の利便性向上、さらには多様な分野における情報ネットワークの整備を図り、新たな交流を生み出し、利便性の高い安全・安心なまちの基盤づくりを進めます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道七飯町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 地域経済の活性化 ・ 大沼観光の振興 ・ 災害に備えた強いまちづくり ・ 企業誘致の推進	・ 北海道縦貫自動車道の整備促進 ・ 北海道新幹線新函館駅北側ルート of 整備 ・ 大沼公園沿線の国道 5 号歩道の設置 ・ 道道大沼公園鹿部線の整備 ・ 道道大沼公園線の整備 ・ 大沼インター線の整備 ・ 道道大野大中山線の整備	・ 流通の高速化により地元農産品の付加価値向上 ・ 新幹線利用者の利便性及び交通アクセスの向上 ・ 駒ヶ岳山ろくの周遊道を整備することにより、駒ヶ岳・大沼を囲む七飯町、鹿部町、森町の広域観光ルートが形成される。 ・ 駒ヶ岳の噴火災害に備えた防災道路として活用される ・ 工業団地と函館新道大川 I C 間が接続され企業の利便性が向上	